

6 郷土ゆかりの文学

(1) 郷土ゆかりの文学を扱う目的

私たちの郷土静岡は、温暖な気候と美しい自然に恵まれた豊かな土地である。また、古くから都と地方とを結ぶ交通の要所として多くの旅人が訪れた場所でもある。これらのことから、静岡を舞台とした文学作品が数多く残されている。郷土にゆかりのある文学に触れることで、児童生徒の郷土の文化や伝統に対する関心や理解を深めたい。

なお、小学校学習指導要領「伝統的な言語文化に関する事項」の

神話・伝承については、古事記、日本書紀、風土記などに描かれたものや、地域に伝わる伝説などが教材として考えられる。(第1学年及び第2学年)

教材としては、親しみやすい作者の句を選んだり、代表的な歌集などから内容の理解しやすい歌を選んだりすることになる。各地域に縁のある歌人や俳人、地域の景色を詠んだ歌や句を教材にすることも考えられる。(第3学年及び第4学年)

などには、授業において郷土に関係のある文学を教材として扱うことが述べられている。

(2) 郷土ゆかりの文学を用いた指導計画例

C 読むこと の領域に関連させた指導〔小学校第4学年〕

郷土にゆかりのある素材を用いて、文語調の短歌(和歌)を情景や心情を想像して読むことを目標とした授業。総合的な学習の時間の調べ学習を通して、歌枕である地域の名所について知り、和歌に詠まれた情景や心情を想像する手掛かりとする。これらの活動によって、地域に対する興味や関心を高めたい。

【「読むこと」における児童の実態】 ○身に付けてきた力 ◆課題が見られる力

- 語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読する。
- 簡単な文語調の文章を音読する。
- ◆情景や心情を想像しながら読む。

【身に付けさせたい力】

- ①内容の中心をとらえて読もうとすること。 〈国語への関心・意欲・態度〉
- ②内容の中心や場面の様子がよく分かるように音読すること。 〈「読むこと」ア〉
- ③易しい文語調の短歌について、情景を思い浮かべたり、リズムを感じ取りながら音読をしたりすること。 〈伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項ア(ア)〉

【言語活動例】文章を楽しんだり、想像を広げたりしながら読むこと。〈低学年ア〉

【単元名】音読発表会をしよう～場面の様子がよく分かるように音読する～

【教材名・教材の特長】「小夜の中山を詠んだ和歌」〈開発教材 資料 p.138～141〉

有名な歌枕である「小夜の中山」(掛川市)は昔から多くの人々の歌に詠まれてきた。その理由(東海道の難所であったこと、夜泣き石の伝説等)を知り音読に生かすことで、郷土に対する興味や関心を高めることができる。

※「古今和歌集」「新古今和歌集」「金塊和歌集」に計六首が掲載されているが、生徒の実態に応じて、適切な歌を取り扱う。

【言語活動】情景や気持ちを想像しながら和歌を読む。〈低学年ア〉

※総合的な学習の時間において、「小夜の中山」について、地域の人へのインタビューや関連図書から調べ学習を行い、交流を通して知識を共有する。

【単元目標】

- ①和歌に描かれた情景や気持ちを想像して音読している。 〈国語への関心・意欲・態度〉
- ②総合的な学習の時間で学んだことを生かしながら、音読する。 〈「読むこと」ア〉
- ③情景や気持ちが感じられるよう、リズムよく音読する。 〈伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項ア(ア)〉

時	評価規準	評価方法	学習活動
1			<p>「小夜の中山」を題材にした和歌があることを知る (総合的な学習の時間との連携)</p> <ul style="list-style-type: none"> 総合的な学習の時間で、地域の名所として調べた内容を出し合う。 小夜の中山を詠んだ和歌の範読を聞く。
2			<p>学習のめあて「音読発表会をしよう」を知り、和歌の「音読」で大切なことを考える</p> <ul style="list-style-type: none"> 声の大きさやリズムに気を付けること、情景や気持ちが分かるように読むことを知る。 意味によって切れる場所(句切れ)が違ったり、声の強弱や緩急で気持ちを表現できたりすることを知る。 <p>和歌を読み、自分の一首を決める</p> <ul style="list-style-type: none"> 全体で読んだ後、個人、ペアなど繰り返し音読する。 おおよその意味を知り、発表会で音読したい一首を選ぶ。
3	②総合的な学習の時間で学んだことを生かしながら、音読している。 〈「読む能力」ア〉	ワークシート	<p>選んだ和歌について情景や気持ちを考える</p> <ul style="list-style-type: none"> 選んだ和歌とその意味をワークシートに視写する。 意味を参考に、和歌に詠まれている情景や気持ちを想像し、ワークシートにまとめる。また、そのように考えた根拠を「小夜の中山」について学んだことの中から挙げ、併せて記入する。
4 5	③情景や気持ちが感じられるよう、リズムよく音読している。 〈言語についての知識・理解・技能ア(7)〉	ワークシート	<p>効果的な読み方について考える</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分が考えた情景や気持ちを伝えるために、どのように読めばよいのかを考え、ワークシートにまとめる。 考えた読み方で、音読練習をする。 ペアで読み合い、効果的に表現されている箇所や伝わりにくい表現の箇所を指摘し合う。
7 8	①和歌に描かれた情景や気持ちを想像して音読しようとしている。 〈国語への関心・意欲・態度〉	観察 評価カード	<p>音読発表会を行う</p> <ul style="list-style-type: none"> ワークシートを用いて、自分の考える「情景や気持ち」「表現での工夫点」について説明した後、音読をする。 聞き手は、発表者のよかった点について評価カードに記入する。

【Cと評価した児童への手立ての例(上記の評価規準の順)】

- ②「小夜の中山」がどのような場所であったか、ポイントを絞って考えるよう助言する。〈ア〉
- ③句切れをどこにするか、強く(速く)読んだ方がよい部分や弱く(ゆっくり)読んだ方がよい部分はないか、考えるよう助言する。〈ア(7)〉
- ①評価カードが書けない場合は、発表者が工夫点として述べたことを再度伝える。
〈国語への関心・意欲・態度〉

B書くこと

の領域に関連させた指導〔小学校第6学年〕

郷土にゆかりのある素材を参考に、物語と短歌を書くことを目標とした授業。取材の部分は総合的な学習の時間で行い、国語では課題設定の部分を中心に扱うというように、総合的な学習の時間との連携を踏まえている。地域の名所や旧跡について調べ、物語や短歌を書くことで、地域に対する興味や関心を高めたい。

【「書くこと」における児童の実態】 ○身に付けてきた力 ◆課題が見られる力

- 関心のあることから書くことを決め、必要な事柄を調べる。
- 事実と感想、意見などを区別したり、理由や事例を挙げたりして書く。
- ◆調べた事柄から必要に応じて取捨選択したり、目的に応じた構成を考えたりする。

【身に付けさせたい力】

- ①考えたことなどを文章全体の構成の効果を考えて書こうとすること。
〈国語への関心・意欲・態度〉
- ②考えたことなどから書くことを決め、目的や意図に応じて、全体を見通して事柄を整理すること。
〈「書くこと」ア〉
- ③古典について解説した文章を読み、昔の人のものの見方や感じ方を知ること。
〈伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項ア(イ)〉

【言語活動例】経験したこと、想像したことなどを基に短歌を作ったり、物語を書いたりすること。
〈ア〉

【単元名】「私たちの伊勢物語」を作ろう～目的や意図に応じて書く～

【教材名・教材の特長】「伊勢物語『東下り』富士山の部分」〈開発教材 資料 p.129～130〉

「伊勢物語『東下り』」には、主人公が初めて訪れた地方の珍しい風景が、感動を持って描かれている。ここでは、初めて富士山を見た主人公の驚きが「雪」と「大きさ」を中心に書かれている。日頃、見慣れた風景を「創作」という視点で見直したとき、新しい郷土の魅力に気付くことができる。

※本文の取り扱いは、児童の実態に応じて、「伊勢物語」の現代語訳のみを使用したり、古文と現代語訳を併記したもの、又は、和歌のみ古文のまま示したりするなど、様々な方法が考えられる。

【言語活動】

地域の名所・旧跡について調べたことを基に、経験したことや想像したことを付け加え、伊勢物語の表現方法を真似て、物語と短歌を創作する。〈ア〉

※総合的な学習の時間において、地域の名所や旧跡について、地域の人へのインタビューや関連図書から調べ学習を行い、交流を通して知識を共有する。

【単元目標】

- ①伊勢物語の表現方法を参考に、構成の効果を考えて物語と短歌を書こうとする。
〈国語への関心・意欲・態度〉
- ②総合的な学習の時間で学んだことから書くことを決め、初めてその場所を訪れた人の驚きや感動を伝えるという視点で書く事柄を整理する。
〈「書くこと」ア〉
- ③伊勢物語を読み、昔の人のものの見方や感じ方を理解する。
〈伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項ア(イ)〉

時	評価規準	評価方法	学習活動
1 2	③伊勢物語を読み、昔の人のものの見方や感じ方を理解している。 (言語についての知識・理解・技能ア(1))	ワークシート	<p>学習のめあて「私たちの伊勢物語を作ろう」を知り、伊勢物語の特徴を考える</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「富士山」の部分を音読する。 ・都(京都)の人が初めて静岡を訪れ、富士山を見た時の驚きが描かれていることを知る。 ・本文が物語と和歌(短歌)でできていることを知る。 ・始めに「雪」、その後に山の「全体像」について書かれていることを知り、その効果について理解する。 <p>地域の名所や旧跡について確認し、「初めて静岡を訪れた人に紹介したい場所」という視点で、自分が書きたい場所を決める(総合的な学習の時間との連携)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・総合的な学習の時間で調べたことを出し合う。 ・複数の名所、旧跡の中から自分が書きたい場所の一つを決める。
3 4 5 6 7	②総合的な学習の時間で学んだことから書くことを決め、初めてその場所を訪れた人の驚きや感動を伝えるという視点で書く事柄を整理している。 (「書く能力」ア) ①伊勢物語の表現方法を参考に、構成の効果を考えて物語と短歌を書こうとしている。 (国語への関心・意欲・態度)	ワークシート 作品 感想カード	<p>学習の見通しを持ち、物語と短歌を書く 自分が決めた場所について、書きたい事柄を整理する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・総合的な学習の時間で学んだこと、その場所で自分が経験したことや聞いた(読んだ)こと、想像したことを付箋に書き出す。 ・「初めてその場所を訪れた人が驚いたり、感動したりする」という視点で、付箋の中から書きたい事柄を選び出す。 ・「富士山」の書かれた順序と照らし合わせて、書く順序を決め、付箋を整理する。 <p>付箋を生かして物語文を書く</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「初めてその場所を訪れた人の驚きや感動を伝える」という視点で書く。 <p>書いた物語の中で、最も伝えたい部分を短歌で表現する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・五・七・五・七・七の三十一文字で書く。 <p>短歌を効果的な位置に置き、物語文を清書する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「富士山」の和歌(短歌)の位置を確認する。 <p>「私たちの伊勢物語」を読み交流をする</p> <ul style="list-style-type: none"> ・清書原稿を印刷し「私たちの伊勢物語」として製本、配布する。 ・グループの中でそれぞれが書いたものを読み合い、感想カードを交換する。

【Cと評価した児童への手立ての例(上記の評価規準の順)】

- ③比喩の効果などに触れ、昔の人と現代の自分たちとに感じ方の違いはないことを伝える。
(ア(1))
- ②書きたい場所のことを知らない人に紹介するとき、一番伝えたいことは何か考えるよう助言する。(ア)
- ①始めに一番伝えたいこと、次に短歌、伝えたいことの説明の順で書くと良いことを伝える。
(国語への関心・意欲・態度)

B書くことの領域に関連させた指導〔中学校第1学年〕

郷土ゆかりの素材を用いて鑑賞文を書くことを目標とした授業。中学校第1学年の言語活動例に「鑑賞したことを文章に書く」が設定されているが、多くの生徒がこれまで国語の授業において鑑賞文を書いたことがないと思われる。ここでは、小学校から継続して学習してきた音楽や図工(美術)の鑑賞の視点を文学作品の鑑賞に活用する。

身近な情景を歌った、童謡・唱歌の鑑賞を通して郷土に対する興味や関心を高めたい。

【「書くこと」における生徒の実態】 ○身に付けてきた力 ◆課題が見られる力

○事実と感想，意見などを区別して書く。

○他の文章を引用して自分の考えを書く。

◆自分の意見を根拠を明確にして書く。

【身に付けさせたい力】

①進んで文章を書いて考えをまとめようとする。 〈国語への関心・意欲・態度〉

②伝えたい事実や事柄について，自分の考えや気持ちを根拠を明確にして書くこと。
〈「書くこと」ウ〉

③語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意し，語感を磨くこと。
〈伝統的言語文化と国語の特質に関する事項イ(イ)〉

【言語活動例】 関心のある芸術的な作品などについて鑑賞したことを文章に書く。〈イ〉

【単元名】 鑑賞文を書こう～根拠を明確にして書く～

【教材名・教材の特長】 〈開発教材〉

静岡県には，土地の情景を詠み込んだ童謡や唱歌が数多く残されている。例えば，「みかんの花咲く丘」「茶摘み」「汽車ポッポ」「背くらべ」「森の水車」など。生徒たちが幼い頃，歌ったり耳にしたりした歌を自分たちの郷土の歌という面から眺めたとき，新たな発見や感動があると思われる。生徒や地域の実態に応じて様々な歌を取り上げることで，静岡という土地を多面的に眺めることができる。

なお，童謡を教材として取り上げるに当たり留意したいこととして，あくまでも歌詞に着目することが挙げられる。授業において，生徒たちが知っている童謡を口ずさむことは十分考えられるが，曲のイメージが純粋に歌詞を味わうことの妨げにならないよう注意したい。

【言語活動】

興味を持った童謡の歌詞について鑑賞文を書く。 〈イ〉

【単元目標】

①鑑賞の視点を持って鑑賞文を書き，自分の考えをまとめようとする。
〈国語への関心・意欲・態度〉

②自分の考えや気持ち，感じたことを根拠を明確にして鑑賞文に書く。 〈「書くこと」ウ〉

③歌詞の言葉を情景や気持ちと関連させながら理解する。
〈伝統的言語文化と国語の特質に関する事項イ(イ)〉

時	評価規準	評価方法	学習活動
1			<p>童謡の歌詞について鑑賞文を書くという目標を知り、「鑑賞文」とはどのようなものか考える(音楽との連携)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・音楽の時間に、音色やリズムなどの要素や、背景となる文化・歴史などに視点を置いて、自分の感じたことや思ったことを鑑賞していたことを確認する。 ・音楽の例を歌詞に置き換え、言葉やリズム、詠まれている季節や情景、気持ち、歴史などを鑑賞の視点とし、自分の考えを書くことを知る。 ・例示された童謡の歌詞を皆で読み解き、解釈の仕方を理解する。※例えば五感などに着目すると良い。 ・教師が示したモデル鑑賞文から、視点の何点かを確認する。 ・プリントに提示された童謡の歌詞を声に出して読む。 ・自分が鑑賞文を書きたい歌詞一編を選ぶ。
2	<p>③歌詞の言葉を情景や気持ちと関連させながら理解している。</p> <p>〈言語についての知識・理解・技能イ(イ)〉</p>	ワークシート	<p>選んだ歌詞を鑑賞する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・同じ歌詞を選んだ者でペアを作り、自分たちが選んだ歌詞を音読する。 ・歌詞で意味の分からない部分や言葉をペアで互いに指摘したり、質問し合うことで確認し、辞書で調べたり話し合ったりして、大体の意味を理解する。 ・前時に確認した視点の中で、自分の選んだ歌詞に関連する視点を取り上げ、特徴や読み取れることを書き出す。 ・書き出した中から鑑賞文に書きたいものを選び、自分が感じたこと、考えや気持ち、感想を書き加える。
3	<p>②自分の考えや気持ち、感じたことを根拠を明確にして鑑賞文に書いている。</p> <p>〈「書く能力」ウ〉</p>	下書き原稿	<p>鑑賞文の下書きを書く</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートに記入してある言葉の意味、視点から読み取った内容や特徴が自分の考えや気持ちの根拠となることを知る。 ・ワークシートの内容を生かして400字程度で鑑賞文の下書きをする。
4	<p>①鑑賞の視点を持って鑑賞文を書き、自分の考えをまとめようとしている。</p> <p>〈国語への関心・意欲・態度〉</p>	ワークシート	<p>鑑賞文を読み、交流をする</p> <ul style="list-style-type: none"> ・同じ歌詞を選んだペアで下書き原稿を読み、自分と違う視点や同じように捉えた視点について話し合い、気付いたことをワークシートにまとめる。 ・話し合っただけの内容を反映させて鑑賞文を清書する。 ・各家庭で、自分の選んだ童謡と鑑賞文を紹介し、感想を聞き、自分の振り返りとともにワークシートに記入する。
5		清書原稿	

【Cと評価した生徒への手立ての例(上記評価規準の順)】

- ③季節や場所、色や香りなどを想像させる言葉を探すよう助言する。〈イ(イ)〉
- ②「読み取った内容とそれに対する自分の感想」を一つのまとまりとして考え、そのまとまりをいくつか書くよう助言する。〈ウ〉
- ①話し合いが進まないペアについては、ワークシートに戻り、選んだ視点がどこであったか、そこからどんなことを読み取ったかなどを話し合うよう伝える。〈国語への関心・意欲・態度〉

C読むこと^①の領域に関連させた指導〔中学校第3学年〕

【「読むこと」における生徒の実態】 ○身に付けてきた力 ◆課題が見られる力

- 文章の構成や展開,表現の工夫について読み取る。
- 読み取った構成や展開,表現の仕方に対して自分の考えを持つ。
- ◆文章を客観的,分析的に読み深める。

【身に付けさせたい力】

- ①文章の展開や表現の仕方などを評価しながら読もうとすること。〈国語への関心・意欲・態度〉
- ②文章を読み比べるなどして,構成や展開,表現の仕方について評価すること。
〈「読むこと」ウ〉
- ③慣用句・四字熟語などに関する知識を広げ,和語・漢語・外来語などの使い分けに注意し,語感を磨き語彙を豊かにすること。

〈伝統的言語文化と国語の特質に関する事項イ(イ)〉

【言語活動例】 物語や小説などを読んで批評すること。〈ア〉

【単元名】 私の一句を選ぼう～構成や表現の仕方について評価する～

【教材名・教材の特長】「俳句 正岡子規・河東碧梧桐・高浜虚子」〈開発教材 資料 P.143～144〉

静岡県には,過去に多くの文人が訪れ各地に名歌,名句を残している。ここでは,西部地区,東部地区で詠まれた五句を挙げる。自分たちの地域を詠んだ俳句を鑑賞することで,見慣れた景色を違った視点で眺め,気付かなかった郷土の魅力を再認識することができる。

※資料に掲載したもの以外にも数多くの俳句が静岡の地で詠まれている。地域や生徒の実態に応じて様々な作品を取り上げることが考えられる。

【言語活動】

俳句を読んで批評する。〈ア〉

※『『批評』とは,対象とする事物や作品などについて,そのもののよさや特性,価値などについて論じたり,評価したりすることである。』(学習指導要領解説国語編)とあるように,「批評」は「批判」とは違うことに留意したい。批評する視点を定めて俳句と向き合い,そのよさを読み取ることは,読み深めと同時に客観的な読みの第一歩となる。客観的な読みの視点を持つことは,高等学校国語総合「読むこと」の指導事項エ「(略)評価したり,書き手の意図をとらえたりすること。」につながることはもちろん,実生活に生きて働く力となる。

【単元目標】

- ①俳句を構成や表現の仕方の面から批評し,評価しようとする。
〈国語への関心・意欲・態度〉
- ②俳句二句を読み比べ,構成や表現の仕方について評価する。
〈「読むこと」ウ〉
- ③言葉の使い分けや使い方に注意し,語感を磨き語彙を豊かにする。
〈伝統的言語文化と国語の特質に関する事項イ(イ)〉

【授業の具体例】

時	評価規準	評価方法	学習活動
1			<p>「私の一句を選ぼう」という目標を知り、俳句を選ぶ際の視点（批評の視点）を考える</p> <ul style="list-style-type: none"> ・範読に続いて音読した後、個人で繰り返し音読する。 ・自分がよいと考える俳句を二句選ぶ。 ・二句を選んだ理由を発表し合い、選んだ時の視点を確認する。 ・グループで前述の視点を参考にしながら、批評する際に着目したい俳句の構成や表現上の視点を考える。 ・考えた結果を出し合い、切れ字やリズム、言葉の使い方の工夫や面白さ、事物の捉え方の妙などが批評の対象となることを知る。
2	<p>③言葉の使い分けや使い方に注意し、語感を磨き語彙を豊かにしている。</p> <p>〈言語についての知識・理解・技能イ(イ)〉</p>	ワークシート	<p>選んだ俳句二句について批評する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・選んだ俳句について、季語・季節を確認し、辞書を用いながらおおよその意味を確認する。 ・前時で確認した批評の視点をを用いて、それぞれの句について批評をする。その際、なるべく多くの視点から多角的に批評することを心掛け、気付いたことをワークシートに書き出す。
3	<p>②俳句二句を読み比べ、構成や表現の仕方について評価している。</p> <p>〈「読む能力」ウ〉</p> <p>①俳句を構成や表現の仕方の面から批評し、評価しようとしている。</p> <p>〈国語への関心・意欲・態度〉</p>	<p>ワークシート 清書用紙</p>	<p>二句を読み比べ、よいと考える俳句一句を選ぶ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前時に書き出した内容とともに俳句を読み比べ、二句のうちよりよいと思う俳句一句を選ぶ。 ・どのような点を評価して上記の一句を選んだのか、その理由をワークシートに書き出す。 ・グループ内で、自分が選んだ俳句とその理由を発表し、交流する。 ・清書用紙に選んだ句とその理由を丁寧に書く。その際に交流した中で、新たに感じたよい点や他の人の意見で取り入れたいものを書き加えてもよい。 ・清書したものを教室内に掲示したり、印刷して配布したりするなど、多くの考え方に触れるような場の工夫を図る。

【Cと評価した生徒への手立ての例(上記の評価規準の順)】

- ③例えば、「平仮名の表記と漢字の表記では感じ方がどう違うか」のように、具体的な視点を伝え、考えが深まるようにする。〈イ(イ)〉
- ②言葉の工夫なら言葉の工夫というように、同じ視点で読み比べてみるよう助言する。〈ウ〉
- ①句を選んだ理由が書けない生徒には、2時間目にワークシートに書き出した項目を箇条書きで羅列するだけでもよいことを伝える。〈国語への関心・意欲・態度〉

(3) 郷土ゆかりの文学に関する参考資料

【参考となる文献】

『フィールドワーク静岡の文学』	昭和 51 年	静岡県出版文化会
『静岡県の文学散歩 作家と名作の里めぐり』	昭和 52 年	岡田英雄 静岡新聞社
『三島文学散歩』	平成 3 年	中尾 勇 静岡新聞社
『万葉歌碑を歩く』	平成 5 年	高木桂蔵 静岡新聞社
『街が語った物語 文学で見る静岡』	平成 6 年	宮下拓三 静岡新聞社
『静岡県と作家たち』	平成 8 年	静岡近代文学研究会 静岡新聞社
『静岡県万葉の歌』	平成 10 年	高橋清隆 静岡新聞社
『文士たちの伊豆漂泊』	平成 10 年	鈴木邦彦 静岡新聞社
『しずおか詩歌の風景』	平成 11 年	杉山 学 静岡新聞社
『羽衣・竹取の説話』	平成 12 年	静岡総合研究機構 静岡新聞社
『東海道と文学』	平成 13 年	戸塚恵三 静岡新聞社
『静岡文学散歩』	平成 16 年	和久田雅之 羽衣出版
『新訂 静岡県文学読本』	平成 19 年	静岡県出版文化会

【県内の文学館等】

起雲閣（熱海ゆかりの文人についての展示）	熱海市（熱海市HP参照）
双柿舎（坪内逍遙旧居）	熱海市（ ” ）
凌寒荘（佐々木信綱旧居）	熱海市（ ” ）
彩苑（杉本苑子旧居）	熱海市（ ” ）
伊東市立木下杢太郎記念館	伊東市（伊東市観光協会HP参照）
漱石庵（旧菊屋旅館別館，修善寺虹の郷内）	伊豆市（伊豆市観光協会HP参照）
伊豆近代文学博物館（昭和の森内）	伊豆市（ ” ）
伊豆市立湯ヶ島小学校（井上靖資料室）	伊豆市（HP参照）
井上靖文学館（クレマチスの丘内）	駿東郡長泉町（クレマチスの丘HP参照）
大岡信ことば館	三島市（HP参照）
沼津市芹沢光治良文学館	沼津市（HP参照）
沼津市若山牧水記念館	沼津市（HP参照）
樗牛館（観富山龍華寺内）	静岡市（観富山龍華寺HP参照）
中勘助文学記念館（杓子庵）	静岡市（静岡市HP参照）
焼津小泉八雲記念館	焼津市（焼津市HP参照）
藤枝市文学館	藤枝市（HP参照）
吉行淳之介文学館	掛川市（ねむの木学園HP参照）
浜松文芸館分館 木下恵介記念館	浜松市（浜松市HP参照）
浜松市立賀茂真淵記念館	浜松市（ ” ）
万葉の森公園	浜松市（浜松公園緑地協会HP参照）

※ HP(ホームページ)等の情報は平成 23 年 10 月現在のものです。参照の際は最新版を確認して下さい。